

とちぎ行革プランの取組結果(概要版)

【平成23～27年度】

プラン全体として取組を順調に推進することができました。

◆取組項目ごとの達成状況◆

全取組項目数：95項目

- 目的を達成 (◎)：15項目
- 順調に推移 (○)：78項目
- 継続検討等 (△)：2項目

I 県民とともに地域を創る行政の推進

◎:2項目 ○:22項目 △:1項目

II 県民に開かれた行政の推進

◎:2項目 ○:19項目

III 自律的な財政基盤の確立

◎:6項目 ○:16項目

IV スリムで活力ある執行体制の確立

◎:5項目 ○:21項目 △:1項目

I 《協働》県民とともに地域を創る行政の推進

概ね順調に取り組みました



①市町村との連携を強化するとともに権限移譲を積極的に推進しました

⇒県独自の取組として市町の意向なども踏まえながら、国の施策等に関する提案・要望を実施

⇒23年度に改定した「栃木県権限移譲基本方針」に基づき、計画的に権限移譲を推進(28年4月1日現在120法令1,971項目)

②民間活力の活用を図りました

⇒42施設に指定管理者制度を導入(28年4月1日現在)

⇒総合スポーツゾーン東エリアや馬頭最終処分場の整備へのPFI導入を推進

⇒県営寺山ダムや県営塩原ダムで「ダムESCO事業」を実施

③多様な主体と県との協働事業を推進しました

⇒「大学コンソーシアムとちぎ」において、26年度から「とちぎグローバル人材育成事業」を開始

④県有施設のあり方見直しを実施しました

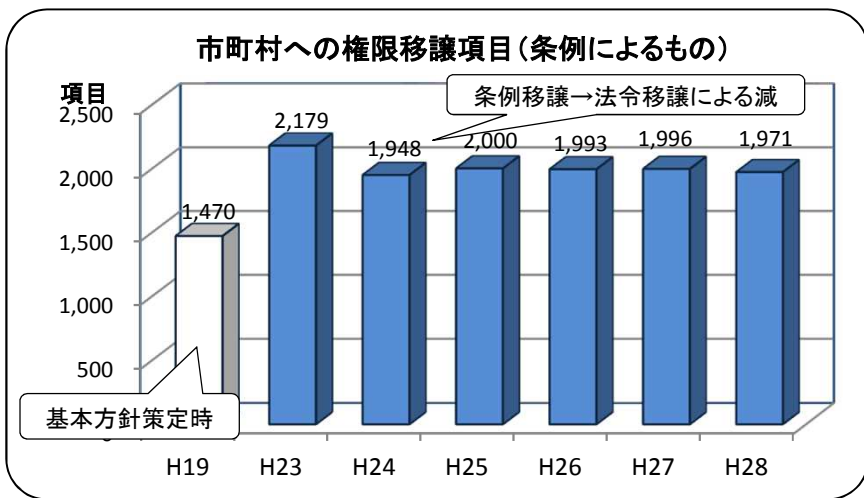
⇒なす風土記の丘資料館湯津上館を地元市に移管(24年4月1日)

⇒なす風土記の丘資料館(旧小川館)及びしもつけ風土記の丘資料館を地元市町に移管(27年4月1日)

⇒足利図書館を地元市に移管(28年4月1日)

⑤県出資法人等の見直しを推進しました

⇒「特定指導法人の見直し基本方針(改定)」に基づき、組織の統廃合や事業の見直し等を推進



足利図書館を
地元市に移管
(H28.4.1)

II 《透明》県民に開かれた行政の推進

概ね順調に取り組みました



①適切な政策評価を実施するとともに説明責任の徹底を図りました

⇒「新とちぎ元気プラン」(23～27年度)を着実に推進するため、PDCAサイクルを活用した重点戦略マネジメントを実施

②県政情報を積極的に発信するとともに、県民参加の推進を図りました

⇒県ホームページの改善を継続的に実施したほか、本県の魅力等を効果的に発信するため、27年度にリニューアル

⇒集会広聴「とちぎ元気フォーラム」を開催(17年度から継続実施)

③手続や事務処理の公正を確保するとともに、透明性の向上にも努めました

⇒公共工事入札制度の総合評価落札方式について継続的に運用等の見直しを実施

⇒公共工事等以外の契約について、件名や金額等の契約締結状況を県ホームページに公表

④県政へのアプローチの改善を図りました

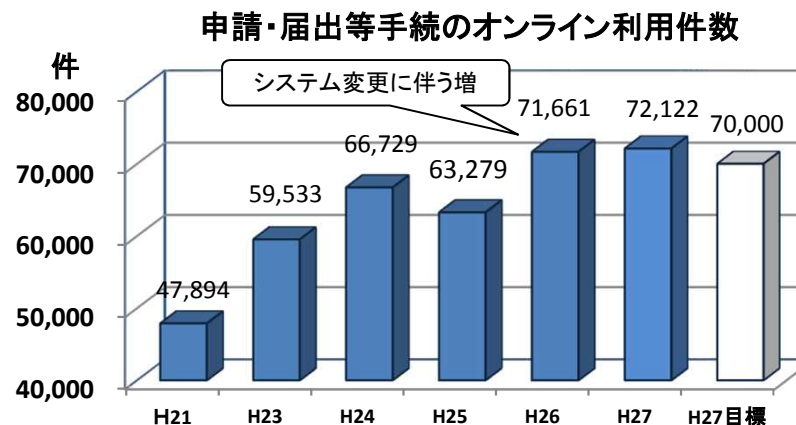
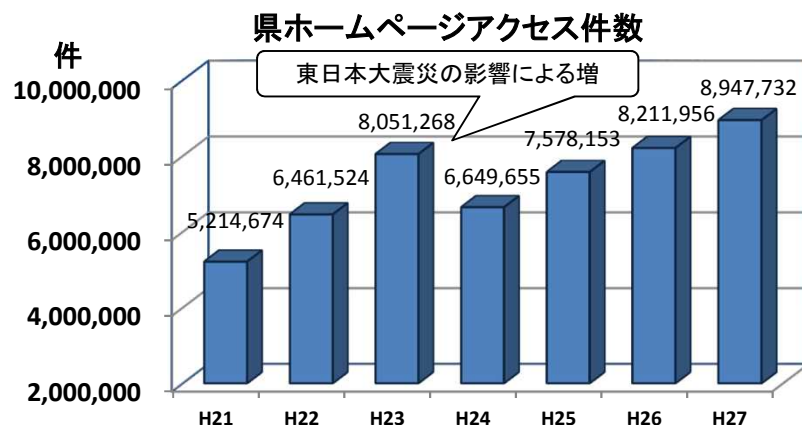
⇒27年度に独自規制の見直しについて検討した結果、118項目の見直し方針を公表

⇒「とちぎICT推進プラン」(23～27年度)の行動計画である「とちぎICT推進アクションプラン」を毎年度作成・推進し、県ホームページで公表

⑤県民サービスの向上を図りました

⇒指定管理者の自己評価や所管課室のモニタリング等を行い、サービス向上を図るとともに、「県民サービス向上運動」を本格実施(27年度:所属数174、取組数202)

⇒指定管理施設の毎年度の管理運営状況を県ホームページに公表



Ⅲ《自律》自律的な財政基盤の確立

概ね順調に取り組みました



① 自律的な財政運営に向けた取組を推進しました

- ⇒25～28年度当初予算において、財源不足額を実質収支の範囲内に収め、収支均衡予算を編成
- ⇒将来の負担となる県債残高(臨時財政対策債を除く)を抑制

② 行政コスト削減のための取組を推進しました

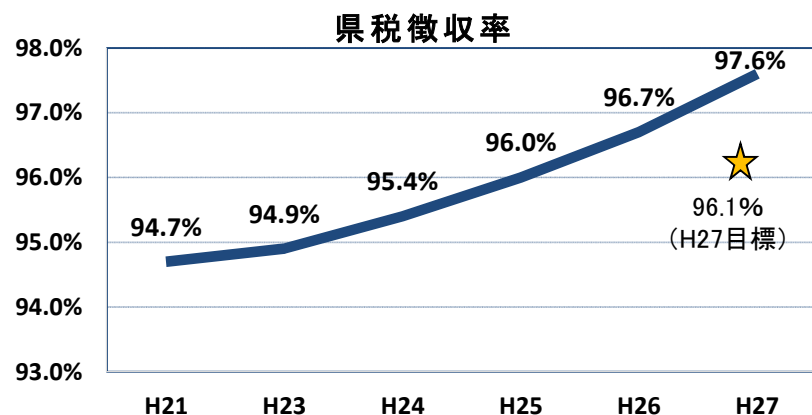
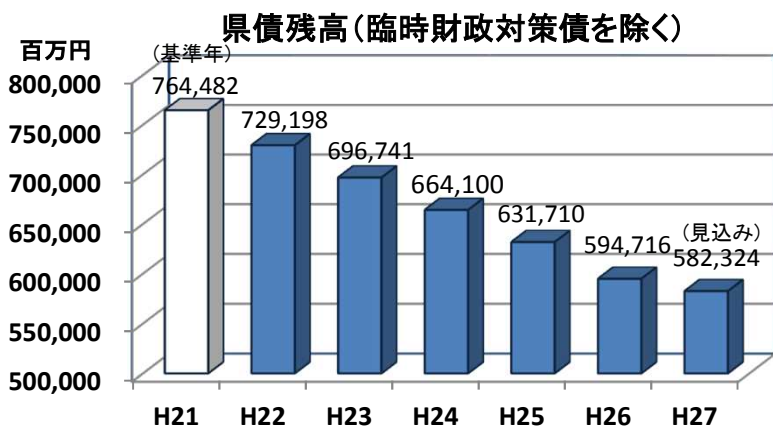
- ⇒予算額を計上せずに実施する「ゼロ予算事業」を実施(27年度:208件 うち新規14件)
- ⇒県単補助金を縮減・合理化(23～27年度当初予算累計で約43.7億円削減)
- ⇒公共事業のコスト縮減率15%以上を26年度まで維持

③ 安定した税収入等を確保する取組を実施しました

- ⇒市町から徴取引継を受けて滞納整理を実施するとともに、市町等との緊密な連携による取組の結果、27年度から県内全市町において特別徴収義務者の一斉指定を実施
- ⇒処分可能な未利用財産の入札や公募等による売却・貸付を実施(23～27年度 財産売却額等累計:27.3億円)

④ 公営企業の自立経営に向けた取組を推進しました

- ⇒企業局経営計画に基づく効率的な経営を実施
- ⇒県立3病院について、改革プラン(21～25年度、26～28年度)の目標達成に向け、経営全般にわたる経営改善を実施
- ⇒28年4月から県立がんセンターを一般地方独立行政法人に移行



IV《原動力》スリムで活力ある執行体制の確立

概ね順調に取り組みました



①効果的で効率的な組織の整備を行いました

- ⇒政策形成型組織や新たな行政ニーズ等に対応した組織の体制強化を実施
- ⇒広域自治体としての県の役割を踏まえた出先機関の見直しを実施

②適正な定員管理を実施しました

- ⇒定員管理計画(目標年:平成25年4月1日)に掲げた目標を達成
- ⇒定員管理計画(目標年:平成28年4月1日)に掲げた目標を達成

【定員管理計画】(25~27年度)

(単位:人)

	基準年 H25. 4. 1①	目標年 H28. 4. 1②	H27実績 H28. 4. 1③	削減目標 ②-①	削減実績 ③-①
一般行政部門	4,406	4,300	4,297	▲ 106	▲ 109

③意欲に満ちた人材の育成を推進しました

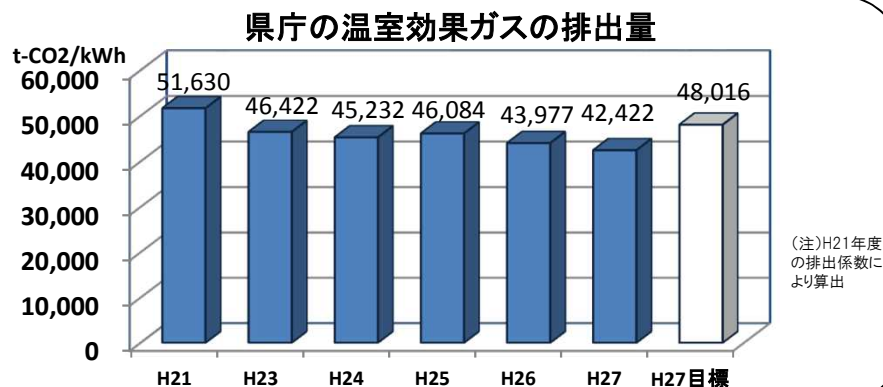
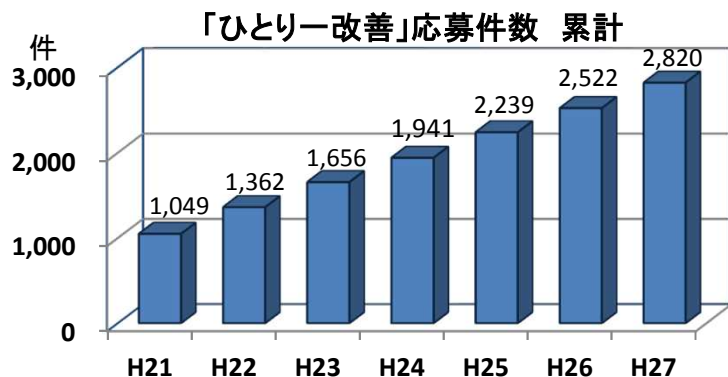
- ⇒定期人事異動に当たり、人材育成を目的とした人事交流を決定(23~27年度(延べ人数):派遣 174名、受入れ 191名)
- ⇒24年度から人事評価システムを本格導入し、評価結果を人事配置に活用するとともに、職員給与等に反映

④給与制度等の見直しを図りました

- ⇒25年度から技能労務職員の給与水準の見直しを実施
- ⇒総合庶務事務システムの導入に伴い旅費制度の見直しを実施

⑤事務処理の効率化や事務の改善を図りました

- ⇒25年4月に総務事務センターを設置、26年4月から本格稼働し、手当認定、旅費支給、賃金支給等業務の集中処理を実施
- ⇒職員提案募集制度「ひとりー改善」を実施
- ⇒栃木県独自の環境マネジメントシステム(EMS)の取組を全庁で実施



「とちぎ行革プラン」の取組を「とちぎ行革プラン2016」においても
継続・発展させ、引き続き、着実に推進していきます。

とちぎ行革プラン2016
(H28~32)

I 【協働・共創】 県民と共に
創る開かれた県政の推進

II 【自律】 自律的な行財政
基盤の確立

III 【原動力】 効果的・効率的
な県政運営の推進

**取組の
継続・発展**

とちぎ行革プラン
(H23~27)

I 【協働】 県民とともに地域を
創る行政の推進

II 【透明】 県民に開かれた
行政の推進

III 【自律】 自律的な財政基盤
の確立

IV 【原動力】 スリムで活力ある
執行体制の確立